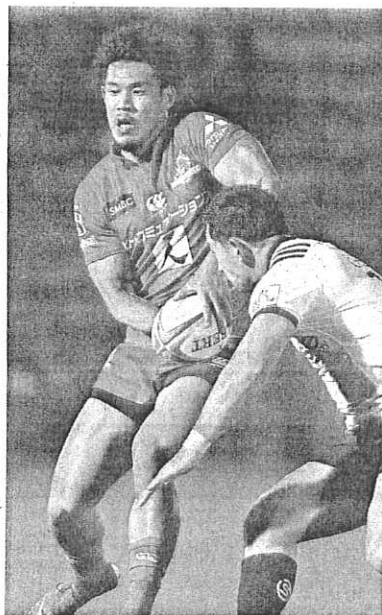


ラグビーW杯代表へ望み膨らむ

山中、円熟味増す大器



10代の頃から規格外のつ。東海大仰星高(大阪)大器として知られたラグビー日本代表の山中亮平(神戸製鋼)が、ようやく目指す場所に近づいている。初めて代表に呼ばれてから10年。活動停止処分という挫折を経て、9月開幕のワールドカップ(W杯)日本大会は手の届く場所にある。

長いキックにノールックパス。司令塔のSOとして華やかなプレーを連発してきた。代表の日本出身選手の中では最長身の188センチの体も併せ持たれた。「ひたすらウエ

転落は2011年。神戸製鋼に入社直後、使っていた育毛剤から禁止薬物が検出された。2年間活動停止。同年のW杯出場は消え、練習も禁止された。

F Bで存在感、迷いなく

「ただけをしていた」という孤独な日々で、97歳の今とほぼ同じ体格を手に入れたがW杯は遠い。前回大会の直前にメンバークラフからオフアークが入り。早大3年で代表ウエートトレーニングもそこまですてなくて。ナチュラル(な体)でやっていた」。くめども尽きぬ才能だった。

「彼は日本で最も才能がある。後は一貫性だけ」。自覚はあった。「昔からそこが課題だと思っていた。いいときはいいけど悪いときは悪いスタイル」。どの監督にも将来を見込まれながらチームに定着できない。代表やスーパーラグビット(SR)に故障者の代役で呼ばれた回数は2桁に達しそうなほどで、ネット上では「ミスター追加招集」の異名がついた。「同じ立場の人がいたら僕もそう思う」と笑う。

光が差し込んだのは昨年だった。ニュージーランド代表の知恵袋だったウェイン・スミス氏が神戸外でもう迷いはない。

今季はサンウルブズの二員として戦った山中

(谷口誠)